

2012 衆院選

初陣岩田氏 歓喜

「若さ」強調 原口氏かわす



初当選を果たし、支持者から胴上げされる岩田和親さん＝16日午後11時25分、佐賀市多布施の事務所

1区

「民主の看板」対「自民の顔」の激突で注目された佐賀1区。国政初挑戦の自民新人・岩田和親さん(39)が、民主前職の原口一博さん(53)との接戦を制し初当選。30代の若さ衆議院議員の誕生に事務所は歓喜に沸き返った。

500人が詰めかけた佐賀市多布施の事務所。16日午後11時15分ごろ、「当選確実」が伝わると、選挙戦を支えた党県連会長の福岡資麿氏や元県議会議長で総括責任者の原口義己氏、選挙協力を進めた公明党幹部らが、がっちり握手。その約5分後、事務所に着した岩田和親さんは、支持者らから大きな拍手と歓声で迎えられ「小選挙区で当選をいただき、この上ない喜びです」と感謝した。

県議だった2年前、「国の仕組みという根本から変えていかなくては」と党の公費に手を挙げ、13人の中から選ばれた。相手の原口さんは衆院5期の大臣経験者で全国でも抜群の知名度。岩田さんは県議3期で培った人脈があるとはいえ、鳥栖市など県東部ではほぼ無名。当初は「アリと象の戦い」とも言われた。しかし、3年3カ月前、政権交代の波にのまれ、自らの雪辱戦と位置づけて戦った福岡氏との二人三脚で、徐々に浸透。自らも佐賀市から三養基郡基山町まで選挙区をジョギングして回り、「若さ」を前面に押し出して挑んだ。

保利氏圧巻 12連続



当選確実となり万歳する保利耕輔さん。右は妻の美萌さん＝16日午後8時3分、唐津市東唐津の唐津シーサイドホテル

3区

父・茂さんに並ぶ

佐賀3区は自民前職の保利耕輔さん(78)が圧巻し、12回連続当選を決めた。投票終了直後の16日午後8時すぎ、NHKが全国一番手で「当選確実」を伝えるのを、唐津市内のホテルで支持者とともに見届けた保利さんは「自民党員張れといふ多くの信任をいただいた。期待に背かないように、日本の政治を立て直したい」と力強く語った。

同世代の自民党議員が相次ぎ引退する中、出馬するかどうか最後まで迷った勝利は、確実視されたが、他県への応援には出す。親子2代にわたって60年以上関わり、地域の表情を自らに感じている。

「地元」に密着し、皆さんの声を聞き続けたことは大きな財産になった。(二)で得たものを今後の政治活動に生かしたい。憲政史上初の親子2世代衆議院議長も高まる中、保利さんはあらためて政治への思いを語った。(日高勉)

今村氏 組織戦で雪辱

2区

「TPP阻止」支持拡大

市三日町の事務所「当選確実」を守るため、環太平洋連携協定(TPP)阻止の先頭に立って食った。あらゆる重500人の支持者から歓声が上がった。今選挙でTPP反対の笑みがこぼれた。今村さんは、握手攻めにあり、業団体と一体となり、支持を広げながら壇上に、「本当に、本当に、誠にありがとうございました。みなさん、ありがとうございます。私の政治生命は終わってしまいたい。TPPや諫早湾干拓の再開問題など地元の問題を背負い、政権与党での活躍を誓った。」(青木宏文)



当選確実になり、支持者と喜びを分かち合う今村雅弘さん(右)＝16日午後10時45分、小城市三日月町の事務所

3年3カ月前の歴史的な「政権交代」党が相次いで誕生。第三極がめどした「ファースト連反」の高揚感から冷めた。注目されたが、県内の3小選挙区に候補擁立は、既成、唐突な解散で1カ月の短期のかけ取りを委ねた。佐賀県、政党内の対決構図の決戦となったことも、圧倒的も1、3区を自民が独占。初、全体的に盛り上がりをつなぐ組織力を誇る自民に有利の政権与党だった民主党は2、欠いた。政治不信や行き場を失った。1区で新人の岩田和親議員を擁護され、県政界地図探す無党派層の受け皿不在。氏が元総務相の原口一博氏をも元塗り替えられた。

「王国」復活なお遠く

ただ、全国的に民主党への「ブーイング」、戦後最低となった逆風が吹き荒れる中で、県内、たごにもうかがえる。では組織力に劣る民主党が、その中で自民に支持が振られ、織りに負つてつらさが大きい。2区とも健闘し、比例復活。たのは、民主政権のみ。また、選挙区では、民主党の支持と映、洋連携協定(TPP)交渉も勝り、自民が「復活」する。民主は地方予算の増額や、加反対を前面に出し、面目を挽回し、自民が「復活」する。民主は地方予算の増額や、加反対を前面に出し、面目を挽回し、自民が「復活」する。民主は地方予算の増額や、加反対を前面に出し、面目を挽回し、自民が「復活」する。

旧来構図 盛り上がり欠く

申博志氏を推進姿勢の野田首相側近として攻めて退いた。3区は社民が確立せず、民主も見送った事実上の不戦勝で、「保利王国」の自民が独走した。福岡第1原発事故を踏まえて問われた原発政策で即時ゼロを訴えた共産は、一定の支持にとどまった。自民が政権復帰したが、参院は自公で過半数に届かない。衆参で多数が異なる。これだけ国会が動く可能性は残り、来夏の参院選は「ねじれ」解消も焦点だ。自民が参院議席も独占し、完結復活を成し遂げるか。民主が候補者選定を急ぎ、反転攻勢に出られるか。年明けから再び攻防が始まる。(辻村圭介)

テレビ14面、第2テレビ15面に掲載